

令和7年度第2回葉山町地域公共交通会議 議事録	
日 時	令和7年7月10日(木) 15時～16時30分
場 所	葉山町役場3階 協議会室1
出席者	<p>■葉山町地域公共交通会議委員 和嶋敦(山梨委員代理出席)、小堤健司、菊池尚、津吉彰郎、森下文章、池田洋樹、雨宮健治、会長 苦瀬博仁、清水弘子、中野徹、村上珠里(廣野委員代理出席)</p> <p>■事務局 (葉山町) 政策課課長 山本英清 課長補佐 吉田幸司 主査 中島孟志 主任 山田悠司</p>
欠席者	<p>■葉山町地域公共交通会議委員 長塚隆介、野地昭弘、原友幸、大門創</p>
議事録	<p>1 開会</p> <p>中 島 : 本日はお忙しいところ、お越しいただきありがとうございます。これより、令和7年度第2回葉山町地域公共交通会議を開催させていただきます。お手数ですが、ご発言の際はマイクのスイッチを入れてからお話してください。それでは、進行につきましては苦瀬会長、お願いいたします。</p> <p>苦 瀬 : 本日もどうぞ宜しくお願い申し上げます。これだけ暑いときに皆さん集まっていたいで大変ありがとうございます。今日は第2地区の実証運行に関する協議が主になると思います。どうぞよろしく宜しくお願い申し上げます。</p> <p>★会議の成立</p> <p>苦 瀬 : 会議の成立状況について事務局より報告をお願いします。</p> <p>中 島 : 本日の会議の出席委員は11名です。葉山町地域公共交通会議規則の第5条第2項の規定により、半数以上の出席があるため、会議が成立していることを報告いたします。</p> <p>★傍聴について</p> <p>苦 瀬 : 続いて、傍聴者の確認について事務局からお願いします。</p> <p>中 島 : 傍聴についてですが、本日は傍聴希望の方はいらっしゃいません。</p> <p>苦 瀬 : はい、ありがとうございました。</p> <p>2 議題</p> <p>★資料の確認(事務局から説明)</p> <p>議題1 前回の葉山町地域公共交通会議の振り返りについて</p> <p>苦 瀬 : それでは次第の1番目、前回の葉山町地域公共交通会議の振り返りについて、事務局からご説明をお願いします。</p> <p>★資料1「1前回の葉山町地域公共交通会議の振り返り」により説明</p> <p>苦 瀬 : 資料1の3ページから8ページまででございますが、まだ説明会の開催もこれから3回</p>

か4回あるわけですね。ですから前回の会議で皆様方からいただいたご意見を踏まえて、こういう改善をしているということですが、皆様方、何かこうアドバイスとして、これからまだ開催する説明会もありますので、何かございましたらお願いをしたいと思います。ご意見、ご質問、どちらでも結構でございます。いかがでしょうか。

森 下 : 説明会を何回か実施されているという話ですが、参加された人数がどのくらいであったのか、あとその他何か説明したときの反応と伺いますか、どのようなお話があったのか、何かあれば教えていただきたいです。

中 島 : まず説明会への参加者の状況ですが、ここまで11回開催しておりまして、延べ人数としては55名となっています。1回平均でいくと5名というところ。一番多い日では11名参加という日がありましたが、0人という日もございました。説明会の場で聞いたお話で、特に私が感じたところでは、高齢者の方は、スマホはお持ちではあるのですが、やはり思っていた以上にこのアプリの登録、予約というところが、なかなかおひとりでするの難しいのかなという部分について、ご意見いただいたり私が感じたりしたところです。

苦 瀬 : 今の質問に関連して、説明会のときにはアプリの入れ方も参加者と一緒にやっているのでしょうか。

吉 田 : 説明会の方なのですが、中島が中心となって、私も参加させていただきました。最初の2日間はアプリを開発した委託業者の方も来て、一緒にやっていただいたのですが、そのあとは職員の方と一緒にやりました。ご高齢の方が結構多くて、隣に座ってこうやってね、という形でやらせていただいて、実際に予約の直前までですとか、6月中の説明会では実際試しに予約入れてみましょう、という形でやらせていただきました。正直なところ、結構便利な機能がついているのですが、便利けれども、ちょっとお年寄りの方には難しいのかなというようなやりとりがあったところが現状でございます。

森 下 : アンケートは、なるべく端的にという事で作成されたものかと思ったのですが、使う方のプロフィールが、もうちょっと細かく分かるようにした方がいいのではないかなと思いました。このままだと年齢が3区分しかなくて、性別、お年寄りの女性なのか、男性なのかとかいうことによってもその動きが違ってきくこともあるかと思います。あと19歳から64歳の方も、主婦の方、おうちにいらっしゃる方とそうでない方で動き方も違ってきくことがわかったりするので、設問を短くするのであれば、年齢ではなくて、属性と伺いますか、学生とか、職業みたいなもので分類するなどの方が、プロフィールがよりわかるのではないかなと思いました。

中 島 : ご指摘いただいた部分について、やはり1枚にまとめないといけないという部分があって端的にしているところがあるので、一方で今いただいたご意見もおっしゃる通りかと思われましたので、もう少し設問を詳細にする方向で検討したいと考えます。

雨 宮 : 先ほどの説明会のところのお話の中で、やはりアプリの使い方というのが1つのネックになっているのだろうなって思っています。このアンケートだと、アプリで予約しましたか、電話で予約しましたか、といった問いしかないのですが、もっとアプリで、どこで引っかけているのかですとか、そういうのをやらないといけないと思います。ターゲットは多分65歳以上だと思います。その引っかけるところを探していかないといつまでたっても利用者が増えないのではないかなと思います。

吉 田 : おっしゃる通りだと思います。説明会でもやはりお年寄りの方にはアプリの操作が難しいのかなと感じています。実際に一緒に操作しながら、ここをこうやるんですよ、と操

作しても、なかなか理解してもらえなかったような操作項目があったので、これについてはやはり特に高齢の方でわかりづらかった部分がどこなのかという点を、何らかの形でご意見をいただいて、その部分を改良していかないといけないなと思っています。どうしてもアプリが苦手な方は、あまり難しいと途中で辞めて帰られてしまう方もいたので、そういう場合は、電話でも予約できるんですよ、ということで、説明会に来ていただいた方は利用登録票を書いてもらって、役場の方で登録させていただいております。やはりどうしても画面のどこどこを押せば予約できるのかという部分が、若干わかりづらいというようなご意見をいただきましたので、その部分については今後、アプリの委託業者とも改良をする部分について協議していかないといけないかなと思います。

雨宮 : アプリを使ってもらうことが第一なので、どうすれば使ってもらえるのかというところに焦点を置いていかないと持続できないと思いました。そういったアンケートの造りにしたほうがよいかと思います。あと、どのような理由、用事で移動しましたか、という部分を聞こうとしていると思うのですが、これは別で調査をする、例えばトリップのサンプルをとってやってみると、どうやって移動してどこに向かっていくのか、そういうものを追いかけていくと、需要が見えてくると思います。もう少し既存の交通と連携するほうが、利用頻度が上がる可能性があると思います。アンケートの設問6で、デマンドか定時路線どちらがいいのかとかという聞き方をしていますが、この設問5、6についてはですね、別の機会にしたほうがよいのかなと思います。今はとりあえず入口で引っかかっていると思いますので、その原因を探ることが必要なのではないかなと思います。

菊池 : アンケートはフォントが大きくて見やすく良いと思いますが、今言われたような予約関係のところは、アプリが使いやすいですか、否ですか、その辺はやはり欲しいかなとは思っています。一番引っかかったのは設問4番の、要は片道の場合の調査ですけど、片道の場合、帰りはどのようにして帰ったのかと。こちらが聞きたいのは、なぜ往復利用しなかったのかなのですが、書く人にとっては、帰りは何で帰ったのですか、というほうが書きやすくないでしょうか。利用しなかった往路なり復路なり、どのようにして移動されたかというのを聞きたいものかと思うので、言葉もちょっとわかりやすいほうがよいのかなと思いました。

中島 : まさに聞きたい部分はそういう部分でありましたので、もうちょっとわかりやすい、具体的に聞けるような設問の書き方にしたいと思います。

森下 : 想定で構わないので教えていただきたいのですが、アプリを使う人が少ないだろう、ハードルを感じていらっしゃる方がたくさんいらっしゃるだろうという中で、駄目というわけではないですが、このスマートフォン、タブレットの方が回答してくれるというのは、どのくらいいらっしゃる想定されているのでしょうか。ほとんどないと考えているのか、それとも一定以上あると考えているのでしょうか。アンケートをしっかりと取りたいのであれば、例えばアンケートは車内で配るのではなくて、アプリの利用方法の案内のチラシに入れて、なおかつQRコードをつけて、これは持って帰ってもらってアプリの登録ができますよ、家に持って帰ってもできますよ、というようなチラシにして、なおかつスマートフォンでアンケートも回答できるといった形にすれば、説明もできますしスマートフォンでのアンケート回収もできるかなと思います。ただその実際として、スマートフォンを使う方があまりいらっしゃらないのであれば、ちょっとそういう方やり方も難しいかなとは思っています。

- 吉 田 : アンケートの実施方法について、車内で簡単に書いてもらう方法が1点と、スマホがあればやっていただくという両方を考えているところなのですが、若い方だとスマホでやった方が面倒くさくない、というところもあるのですが、どうしてもご高齢の方だとなかなかスマホでやるのは難しいところもあると思うので、ちょっとどっちがいいかを含めて今は併用を考えているところです。やり方については、もうちょっと議論させていただいて検討して対応していきたいと思います。
- 清 水 : アンケートと少し離れてしまって恐縮ですが、電話予約ができますよ、ということ、説明会でアプリに不慣れな方にはご案内していますというお話だったのですが、最初から電話でできますよ、というご案内もあるのでしょうか。そちらの方がやさしいのかなというふうに思います。アプリの「チョイソコ」が成功したのは、電話をオペレーターが取ってやってくれるというのが広がったから、いつかは1人勝ちというぐらい広まりました。アプリのところはなかなか苦戦したというのを聞いていたので、まずは電話のところで対応するというのは、やはり人的に難しいことですか。
- 吉 田 : 自分は今年から担当になって説明会に初めて行ったのですが、そこでちょっと意外だったのが、電話でもできますよ、と広報はしているのですが、来られた方はアプリでないといけないのではないかと考えている方も結構いらっしゃったという感覚を受けました。説明会では、アプリが売りというところもあるので、ご案内はさせていただくのですが、どうしても高齢の方だと嫌がる方もいらっしゃって、面倒だという方もいらっしゃるので、普通のタクシーと一緒に、電話で予約することができます、登録・予約というところとちょっとややこしいですが、1回登録を電話でもしてもらえれば、次の予約は普通にタクシーを呼ぶのおなじようにできます、そう難しいものじゃないですよ、とお伝えしたら、よくわかりました、という形でお帰りいただくことができました。ただ、電話でもOKというのが若干浸透してない部分は自分も感じました。そこについては今後の広報ですとか、説明会ではアプリの説明だけではなく、このタクシーの運行形態のお話もしたかったので、させていただいたのですが、今おっしゃられたようなことは、自分も感じましたので、そこは今後考えていかないといけないことだなと思っています。
- 清 水 : 私は福祉有償運送という活動をしていて、総会をするときに100団体ぐらいに案内をしています。出欠確認をQRコードで出すと、ファックスはないのかと聞かれることが多く、やはり70代の方が多くて、外に向けて仕事している人でもファックスで回答したいという方が、残念ながらすごく多いです。なので厳しいだろうなと思っています。
- 雨 宮 : アプリって使わないといけないわけではないですよ。電話1本という手もあるかと思っています。電話とアプリだとコストが高くなるので、どちらか一方を止めればいいとも思いますが、電話1本というのはこれからの時代にはそぐわないとも思います。とにかく使っていただかないといけないと思いますし、赤字で運営をするわけにもいかないとも思います。
- 吉 田 : 今おっしゃられたとおりで、電話とアプリ両方をやっている、両方にお金がかかってしまうので、一本化すればコストはカットできるのですが、そこが難しいところだと思います。実証実験の中で、その割合がどれくらいなのかという部分もデータが取れてきて、利用者の年齢層からいくと、さきほど清水委員が言われているような部分が多いのかなと思います。説明会には付き添いでこられている方がいらっしゃって、親御さんのスマホを使えるようにしてあげよう、これでこうやって予約すれば大丈夫だから、といったこともありました。デジタル化の進む中でちょっとアナログに戻ってしまうような部分

もありながら、その見極めが非常に難しいのだらうなっていう部分ではあるのですけれども、ちょっとそこは実証実験の期間中にデータも取れるので、考えていかないといけないことだなと思います。

森 下 : ご案内の仕方について、まずはハードルを感じさせないようにして利用者をふやすことが必要だと思います。説明をする際には、アプリ「でも」予約ができますよ、としたほうが、ハードルが下がるのかなと思います。そうすればパソコンに明るい高齢者については、アプリでもできるのであればやってみよう、というふうになるのではないのかなと思います。

吉 田 : 今考えているのが、福祉の関係で高齢者の方が集う会合があって、昨年もお邪魔させてもらったと聞いているのですが、今年もそういうところでやる際には、今お話があったような形で、高齢の方はどちらかというところと電話の方がお得意だったりもしますので、電話でできますよ、というご案内をしていくというのも1つの戦略としてありなのかなと思います。今後検討していきたいと思います。

菊 池 : 今年度で実証運行は2年目で、車も買われたのですよね。来年度の話をしてもしようがないですけど、アンケートの話から利用申し込み方法のところに行くのですが、まずは乗ってもらわないといけないと思います。今年度は、まずともかくはやまるタクシーに1回でもいいから乗っていただいて、便利なら乗ってもらえますし、便利でなければ直せるところは直して次につなげる。乗ってもらわないと始まらない中で、現段階で、予約センターでコストもかかっています。まずは電話でも何でもいいので乗ってくださいというのが大事だと思います。乗ってみて便利だなと思っていただいたら、次のステップとして今度はアプリで予約してみてください、というものであって、確かにアプリで予約しておけば、来年度に向けてはいいですけど、今年度の話としてはどうやって申し込むかというより、まず乗ってもらうことが第1だと思います。予約センターからでも予約できます、ではなくて、ちょっと迷う人がいたら、まずは予約センターに連絡してください、今年度はこれいけますから、という案内のほうがよいのかなと思います。乗ってみて、もういいよって言われてしまったらしょうがないですが、乗ってみて、ちょっと役に立つなと思ったら次に繋がっていくものと思いますし、トータルで複数回乗っていただくことになれば、スマートフォンをお持ちの方が多いであろうと思いますので、その予約方法に進んでいけばいいものかと思います。また、説明会の際の資料はパンフレットのみですか。

中 島 : はやまるタクシーの運行の目的の資料を、パワーポイントで4スライド分なのですが、こういう目的で運行します、という紙資料1枚と、このパンフレットと、加えてアプリの登録方法の資料の3点をお配りしています。

菊 池 : この交通会議の大きな目標は、どうしたら今年度の実証運行で現実的に利用が促進されるかという中で、その説明会の話に踏み込んでいるわけですから、そういう資料があれば、差し支えなければ見せてもらってもいいのではないかなと思います。また、本当に言いたかったのは、このパンフレットですが、小さい紙にして渡すというのは如何でしょうか。予約センターの番号が上にあって、下にアプリ予約のQRコードはこっちですといった形で。これが例えばこの半分のサイズ、あるいはちょっと昔だったらカードサイズにして、家の固定電話のところに貼っておいてください、ということもありかと思います。このパンフレットをいちいち持って予約しないと思うので、もうちょっと小さいもので手軽に、例えばお財布に入れておける、パスカードに入れておけるサイズの、

名刺サイズというのでしょうか。字を大きくする必要があるので、どのぐらいのサイズがいいのかわかりませんが、予約センターの電話はこれですよ、ここに付けてください、といった、より突っ込んだツール。ちゃんとした印刷をすればお金がかかると思いますが、庁内でデザインして印刷すれば、大したお金ではないと思いますし、使うためのツールも差し上げるのもよいのではないかと思います。委託事業者からはそういったアドバイスはないのでしょうか。どう利用者に訴えていくかというところで、彼らはプロですから、葉山町役場の皆さんが頭をひねっていろいろお考えになっているのはわかりますが、もう1つ、もうちょっとコンサルの力も利用できないのかなと思って質問と意見両方です。

吉 田 : 確かに昔よく、マグネットのものであったり、名刺サイズのものであったりを配っていて、うちにも貼っていた時期もあったなと思います。委託事業者からは、まだ細かいそういったアドバイスについて、いただいてない部分もあるので、その辺の話をしていきたいと思います。他の自治体や先進的な事例もあると思いますので、その辺参考になる情報は、いただいて対応していきたいなというふうに考えています。

清 水 : 今おっしゃった通りで、私は菊名のお出かけバス、1日30人ぐらいしか乗らないものですが、名刺サイズで車内電話番号はこちら、というものを配っています。そうすると80代の方90代の方から、時間変更してくださいって言って電話かかってきます。ですので、やはり今のお話はすごく有効だなと思います。

雨 宮 : もしかしたら、行きはこのパンフレットを見て電話したものの、帰りはどこにかけていか分からず、携帯に入っているタクシー会社に電話した、という仮説も考えられると思います。

村 上 : 利用者の方へ説明会を何回か開かれていますというところで、この説明会を行ったことによって利用者数が増えている、といった、何か傾向があったりするのでしょうか。

中 島 : やはり説明会の場で、お電話で使われる方もアプリで使われる方も、その場で登録や操作を一緒にするっていう部分もあり、参加していただいた方は、皆さんその場で登録していただけるので、やはり説明会の場が一番登録者数が伸びるような傾向となっています。

小 堤 : アンケートの4項目目で、往復・片道のどちらで利用しましたか、との記載ですが、例えば朝に病院に行って、帰りもこれを使って帰ろうと考えている方が、朝の便でアンケートを書く場合は、片道・往復のどちらになるのでしょうか。

中 島 : 確かにその場合、記載方法で迷ってしまうかと思いますが、もう少しわかりやすい書き方に修正したいと思います。

苦 瀬 : 「登録」とはどういった情報を登録するものでしたでしょうか。名前、住所等の個人情報が必要になるかと思いますが、それらをあらかじめパンフレットに記載しなくてよいのでしょうか。登録については中身がよくわからないと思います。その点についても今後検討いただければと思います。

★資料1 「第2地区の実証運行に関する協議」により説明

森 下 : 新設または移設される乗降ポイントについて、改めて確認ですが、この新設と移設に関しては、関係者、例えば道路管理者ですとか、警察からの道路交通法上の確認だとか、そういった意見ですとか調整ですとか、確認はすべて済んでいるという理解でよろしいでしょうか。

- 中 島 : 乗降ポイントについては、例えば個人宅の壁等に貼らせてもらうものがあるのですが、そういったところについては個別に訪問して内容についてはご説明をして貼らせていただくというふうに調整を進めているところです。また、バス停から10メートル以内、交差点からですと5メートル以内ですね、そういった法律上、駐停車が禁止されている部分については外して設置する、そういった手順で調整を進めているところです。
- 森 下 : そうすると、具体的に今度ここがポイントになって、場合によっては、ここに車が止まって、そのワゴン車が止まって人が乗り降りするような状況になりますよということは、まだ警察さんにご存じでないということでしょうか。例えば警察さんだとか、道路管理者さん、特に警察の方を確認したいのですが、確認は済んでらっしゃらないということでしょうか。
- 苦 瀬 : 今のお話を整理すると、一般的にバス停の移動というものは、交通管理者が必ず関与するはずですから、そういう前提で今ご質問があるのだらうと思います。昨年度からも含めて、この実証運行についてももしも交通管理者の方や、道路管理者の方と相談ないしは報告なりをしているのだとすれば、それを変えるときには報告しないとおかしなことになるのではないかとということだと思えます。ですので、その辺を確かめて、漏れなく関係者に失礼のないように、進めてくださいねというご確認だと思えます。
- 吉 田 : 交通管理者の方には直接まだご報告申し上げてない部分がございます。バス停については長期の利用ができないことからの移設となります。それについては警察との去年の協議の中でそういった指導というか、ご承認をいただいていますので、そこについては移設するのが前提で、第2地区の方を検討させていただきました。移設先については民地に入りますので、直接交通管理者さんとの部分はないと思うのですが、移設しましたよということはきちんと報告しないといけない部分あると思えますし、他の部分につきましても、新たにポイントとなる場所、民地や公有地等で交通管理者さんが直接でないにしろ関与する部分等もあると思えますので、そこについては、今後警察の方にもきちんと報告していきたいと思えます。本日は交通課長さんがいらっしゃっていないので、また改めてこれについてはご報告したいなと思っています。
- 山 田 : 一応昨年度の実証運行の段階で、ここにとめますよという話はさせていただいたのですが、具体的なポイントについては、要は駐停車の禁止区間を外してくれば、警察としては問題ないという言葉いただいております。ですので、今回、追加したポイントがいくつかありますよというお話をさせていただいたのですけれども、ここについては具体的にはまだ伝えていない状況なので、先ほど吉田が申し上げた通り、また原委員のほうにお話をさせていただいて、ご指導いただきたいというふうには考えております。
- 雨 宮 : 新しく黄色いポイントをふやしていますが、これは交通不便地域を拡大したという解釈でいいのでしょうか。それまで対象ではなかった地域に乗降ポイントを加えることは、これが広がったということでしょうか。
- 中 島 : 広がったというよりは、もともと交通不便地域であったという整理をしています。地域公共交通計画の中で交通不便地域の定義を定めておりますので、その不便地の定義の中に、今回新設したところも、元から交通不便地域の定義に当てはまる場所でしたので、交通不便地域自体は変わらずに、不便地域内でポイントをふやすという整理をしているところです。資料の色付けの範囲は、町内会・自治会の範囲を示しております。昨年度ですと、ここが対象だというふうな考え方で、そこを中心にポイント設定をして周知等もやっていたのですが、そこに隣接するところ、ちょっと抜けているところがあるの

ではないかということで、今回それを補完するような形で追加しているところです。

清水 : 今回の実証実験が終わった後に、乗降ポイントを変更するという可能性もあるのでしょうか。

中島 : あると思います。というのも、今回は新設だけでしたけれども、次は長期での運行になるので、新設も引き続き考えますが、減らすという部分も考える必要が出てくるのかなというふうに考えています。利用が全くないところにポイントを設定しておいても意味がない、利用者がいなければ意味がないので、もっとそれを利用者がいそうな方に動かしていくという、そういった検討が必要になってくるのではないかと考えています。

清水 : 続けてなのですが、こういった乗降ポイントを作るときに、住民がどのぐらい関わっているのかなと思っていて、乗降ポイントを決めることは、住民を巻き込むチャンスだと思っています。多分同じような場所に落ち着くとは思いますが、落ち着くとは思いますが、自分たちが関わってこれを決めたというのは、所有感になるので、自分たちのものという、そういう一人称で、うちのはやまる君がさ、といった一人称になるはずだと思います。それが誰かが決めてポンとふってきたっていうのは、おなじ場所でも全然感覚が違うと思うので、これから決めることがあるのであれば、ぜひそういうふうに、チャンスだと思って対応していただければ、すごくいい動きになるのではないかなと思いました。

苦瀬 : 私もちょっと気になっているのですが、今回の実証期間は結構長いですね。今日のお話は、乗降ポイントの話なのでよね。前回の会議でも何回か議論にあったと思うのですが、本当にずっとフルデマンドでいくのかですとか、セミデマンドで行くのかですとか、部分的にどうするのかといった、いろんな議論がありましたが、長い期間だからこそいくつかのやり方ができるという可能性もありますし、長いからあまり変えないで、固定的にやっていく方がわかりやすいというものもあるかもしれませんが、この実証実験全体について、方式や、乗り降りの場所をどういうふうに考えていくのかということについて、今日は乗り降りの場所の話が多いのでわからなかったのですが、そのあたりについては何かアイデアがあるのでしょうか。もしそういうふうにするのであれば、今ご説明にあったように、途中でポイントを変えるかもしれないといったときに、どのぐらいの期間で、どういうふうに皆さん方にお知らせするのかですとか、町が急に変わって、利用者が知らない、というわけにはいかないと思います。ですので、そのあたりの手順や段取りですとか、実証実験全体の目論見みたいなものを、もう少しクリアにした方がいいのかなと思います。ぜひ検討していただければありがたいです。

中島 : ポイントについては、8月1日から始まって3月31日まで長期で行いますので、基本的にはこの期間でこのポイントでやり切るといふふうに考えているところではあります。

苦瀬 : どうしてそうやって決めるのかということについてです。さきほどご意見があったように、いろんな人たちのご意見が出てきたら、それをこういうときに変えてもいいかなと考えるもいいものかと思えます。いやいやそうじゃないんだと、町としては絶対変えないんだと、3月31日までこの形で続けます、と頑張らなくてもいいような気がしています。せっかくご意見があるわけですから、そのあたりを全体として、どういうふうにやっていくのかっていうことをもう少し見直したほうがいいのかと思います。

吉田 : 会長や委員の方からのご指摘の通り、住民の声として、ここに停めたり、ここに行ってもらったりした方が乗り降りしやすいし便利なんだよ、というご意見があれば、それを反映して、よりこのはやまるタクシーを使ってもらおうということが実証実験の最大の目

的ですので、そこは柔軟に対応していくべきだろうなというふうに思っています。ですので、今回はこれで差し当たりというわけではないですが、決めさせていただいて、やっていきたいと思います。この地区はなかなか利用者が増えていかない厳しいエリアであると正直思っているのですが、そういう思いもあって、既存のポイントに隣接して、かつ交通不便地域のところを今回追加して、なるべく多くの方に利用いただけないかというのを内部で検討した結果なのですが、それがやはり、清水委員のおっしゃるように、もうちょっと住民の方から、ここの方がもっと乗り降りしやすいんじゃないの、というところが拾えたかもしれないので、そこについては反省しているところです。今後まだ期間が長いので、会長のご意見の通りですね、場合によっては住民の方からの声が多かったりすれば、当然検討していかないといけないと考えています。

菊池：実証運行全体の話になりますが、公共交通会議で決める権限の部分と、条例と、あともう1つは運送法等、いろいろ上下関係があると思いますが、私が気になったのは、モニター、要は無料で利用してもらおう券を出してモニターさんに利用させていただいたらという検討を、条例にないので検討してみますということですが、これについて、森下委員に伺いたいのですが、自家用有償旅客運送の制度の中で、運送実施主体が葉山町で、町が無料の券を出す、というのは可能でしょうか。私は公共交通会議で決定すれば、それができると思いますし、そうであれば本当はやったほうがいいと思っています。

森下：運送の対価の話なので、おっしゃる通り交通会議で決まっていればいいですし、モニター運送の対価というものを1つ決めるというのも、おっしゃる通りゼロにするというやり方もあります。誰かがお金を払えばいいわけですから、モニターになってください、その対価は、本当はあなたからもらうのですが、いやこれは町が代わりに出しますよ、ですとかそういう形でも別に構わないわけです。モニターの方は無料ですよ、といったお話を進めるときには、国交省のハードルとは別に、やり方はいくらでもあると思いますし、公共交通会議の中で枠組みを決めてもいいのかなと思います。

菊池：運賃の金額については割とここで決める権限ってありますよね、ということでちょっと伺いました。それで、第2地区の説明会はいつから始まるのでしょうか。8月1日に運行スタートではないのでしょうか。

中島：第2地区の説明会については7月の下旬からスタートする予定です。

菊池：本当であれば、今日第2地区の運行開始にあたり、いつ説明会をやって8月1日に備えるという資料が出てくる、出てきてもいい時期なのでちょっと伺いました。またモニターの話に戻りますが、説明会で、スマホで登録するとか、興味を持っていただける人であれば、極端な話、説明会の帰りにこれで乗って帰ってくださいとあって、そこで予約してもらえばいいのではないかと思います。説明会の会場は町内会館等が多いので、近くに乗降ポイントがあるところが多いはずですよ。モニター制度についてももう1歩踏み込んで、1回お試し券、無償で乗れる利用券をさし上げて、これで乗って帰ってください、あるいは1回乗ってください、と言って、券があるのであれば乗らないといけないな、と思う方もいるかもしれないと思います。やはりさっきから申し上げている通り、とにかく1度乗ってみてもらおうということの促進としては、説明会のタイミングに、不特定多数の人に1枚ずつ券を渡すということが、運賃という考え方の整備はあまり考えないで言っていますが、利用促進ということであれば、ありかなと思います。町の方でその部分について整理ができればこの会議にかけていただいて、それはやりましょうという裏付けもできる範囲があるはずですので、モニタープラス今後ある説明会の中で、

利用券を1枚だけでも、町の予算の中でどうするかは考えていただきたいですが、利用促進という中では特に第2地区は前回非常に期間が短く、思うような利用が進まなかったの、そういったことができたらいいなと思って意見として発言させていただきました。

中 島 : モニターの話は引き続き検討をさせていただくのと合わせて、今おっしゃっていたお試し券ですとか、そういった部分もできるかどうか含めて検討してやっていきたいと思えます。

山 田 : あくまで私のイメージでしかないのですが、お試し券というよりは、多分去年の交通会議でも菊地委員からだったと思うのですが、10回分の回数券を作って買ってもらえれば、乗っていただけるだろうという考えがあると思います。要はその回数券を作って、それを誰が払うか別として、モニターの人に配るなり、実際に使ってもらいたい人に1回分渡すなりで、使ってもらうことで、利用促進に繋がるのかなという考えもありますし、多分他の自治体ではそういった回数券の規則だとか決まりを設けているところもあったかなとは思っていますので、そういったところの事例も研究しつつ、なるべく利用してもらえそうな仕組みで考えていければなと思っております。ぜひまた交通会議が今年度あと数回ありますので、アドバイスをいただきつつ、進めていければと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

苦 瀬 : いろいろ議論がありましたが、とりあえずこれでスタートしていきませんが、今までのご意見を参考にしながら改善に向けた検討をしていただければと思います。それでは次の議題としてその他であります、何かございますでしょうか。

中 島 : 次回の交通会議についてなのですが、10月ごろの実施を予定しております。内容としては今年度の実証運行の中間の報告と、次年度以降の運行内容の検討というところを考えております。また8月の中旬以降ぐらいに日程調整のご連絡をさせていただくかと思っておりますので、その際はよろしく願います。その他事項としては以上となります。

苦 瀬 : ということは、2、3か月の実証運行を踏まえて、もし何かを変えるのであれば、10月の会議で議論するということでしょうか。

山 田 : 今年度は5回の交通会議を予定させていただいておまして、本日が2回目です。10月と12月にそれぞれ予定をしていますので、10月12月の会議でもその検討というか協議いただく時間はあるかなと思っています。ただ、来年度4月からいきなり本格運行にこの方式でやります、というふうに決まっているわけではないので、そこをあらかじめ皆さんにご認識いただいた上で、いろんなご意見はいただきたいなと思っています。

池 田 : ちょっと話が戻ってしまいますが、11ページのところで運行時間が9時15分から14時45分となっていますが、間違いなく運行時間を伸ばしてほしいという声が出てくると思います。アンケートの中でも、誰をターゲットにしているかは大体もう想定しますが、午後に外に出ると、帰りは乗れなくなるので、片道しか利用できないと思います。帰りをどうするのか、間違いなくその声は出てくると思うので、そこはQ&Aではないですが、なにか対策を考えておいたほうがいいのではないかと思います。

苦 瀬 : 皆様から他に何かございますでしょうか。

<意見・質問なし>

苦 瀬 : それでは、これにて令和7年度第2回葉山町地域公共交通会議を終了とさせていただきます。おつかれさまでした。